

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第12回（令和2年度第1回）幹事会議事要旨

1 日時：令和2年4月7日(火)11時00分～11時50分

2 実施形態：Web会議システム Zoom

3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、岡島、遠藤、石濱

陪席者：中島（防災科学技術研究所）、前山（〃）、松本（〃）、平岡（セコム）、斉藤（筑波大学）、大塚（〃）、秋葉（〃）、鈴木（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) 令和2年度幹事会委員について

遠藤委員より、資料1に基づき、今年度委員の紹介があり、原案のとおり承認された。併せて、今後の幹事会の進行は遠藤委員に依頼することが承認された。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえた令和2年度年間活動計画（案）の見直しについて

遠藤委員より、資料2に基づき、前回の運営委員会で承認された令和2年度年間活動計画（案）の一部を見直す旨の説明があり、検討の結果、次のとおり修正することで承認された。

- ▶ 2020年5月25日(月)に予定されていた総会・研究交流会を延期し、2020年11月または12月に開催予定のシンポジウムと同日開催とする。
- ▶ 2021年2月または3月に日本電気本社（田町）または玉川事業所（武蔵小杉）、またはスリーエムジャパン株式会社（相模原）で予定されていた第2回運営委員会・見学会を第1回運営委員会・見学会とする。
- ▶ 2020年9月に筑波大学筑波キャンパス 総合研究棟 B棟 1201室で予定されていた第2回幹事会を、Web会議形式で開催する予定とする。

また、石濱委員より、外部に情報を公開することを踏まえ、総会・運営委員会・幹事会の回数のカウントについて、年度ごとではなく通算でカウントする旨の提案があり、検討の結果、承認された。

さらに、林会長より、11月または12月に延期する研究交流会のテーマを「新型コロナウイルスへの対応」とする提案があり、次のとおり意見交換があった。

（林会長）研究交流会のテーマとして、「新型コロナウイルスへの対応をリスクレジリエンスの観点から考える」というのはどうか。

（遠藤委員）賛同する。研究交流会以外でも、コンソーシアムウェブサイト等で、新型コロナウイルス対応についてアウトプットすべきと考えている。

（林会長）防災科研の災害対策本部で発表するステートメントをウェブサイトで紹介するのはどうか。迅速に対応でき、労力もかからないと考える。

（遠藤委員）ご提案の方向で、コンソーシアム事務局と連携して進めたい。

(3) 本コンソーシアムへの新規参画機関について

遠藤委員より、資料 3 に基づき、東急ファシリティサービス株式会社が新規参画を予定している旨の説明があり、入会申込書を受理次第、運営委員会でメール審議を行うことで、承認された。さらに遠藤委員より、将来的に東急ファシリティサービス株式会社の真城源学氏を協働大学院教員として任用を検討している旨、情報共有があった。なお、本議題について次の意見があった。

(甘利副会長) コンソーシアム参画自体は問題ないが、弊社の一部事業と競合になるため、将来的に東急ファシリティサービス(株)からの社会人学生を弊社で受入れることになると、本社側で受入れ NG が出るかもしれないが、ご承知おき頂ければと思う。

(4) 令和 2 年度インターンシッププログラム参画機関について

遠藤委員より、資料 4 に基づき、筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムの学生をインターンシップとして受入れ予定の参画機関について報告があり、新入生にウェブ掲載・オンライン開催のガイダンスをもって周知することが承認された。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 令和 2 年度指導体制について

遠藤委員より、資料 5・6 に基づき、今年度、学生の主指導及び副指導を担当する協働大学院教員の紹介があり、協働大学院教員に学位プログラムに実質的に関わっていただいている旨報告があった。

また、岡島委員より、資料 5 は現時点の情報であり、今後、主指導教員に加え、副指導教員 2 名を付ける予定であるため、協働大学院教員にも新入生の副指導を担当していただく予定であるとの補足説明があった。

(2) 本学の新型コロナウイルス感染症への対応について

遠藤委員より、資料 7～9 に基づき、筑波大学の新型コロナウイルス感染拡大防止への対応として、次のとおり報告があった。

- ▶ 全学の方針として、学生には現在の居住地で待機してもらい、春学期の授業をオンラインによって行うことを基本とする。また、学年暦が改正され、春学期の授業開始は 4 月 27 日(月)となる。
- ▶ システム情報工学研究群としては、オンライン授業の実施について、ネットワーク接続不具合等のリスクを減らすため、出来るだけリアルタイム授業を避け、ビデオ収録等の方法を検討している。

続いて、岡島委員より、リスク・レジリエンス工学学位プログラムの春学期授業科目について、現在、授業を担当する協働大学院教員及び本コンソーシアム参画機関からの非常勤講師に対して世話人教員からコンタクトを取り、授業日程や実施形態等について調整しているとの補足説明があった。

なお、本議題について、次の質疑応答があった。

(甘利副会長) 例えば秋学期までに新型コロナウイルスが収束したとしても、秋学期の授業は改正後の学年暦のまま実施するのか。

(岡島委員) 秋学期については、そもそも改正前の学年暦から特に変更がない。授業がオンライン実施

となるかどうかは、今後の様子を見て決める予定である。

(遠藤委員) システム情報工学研究群としては、4月には授業のオンライン化の体制を整え、あらゆる場合に対応できるようにする。

(3) 卓越大学院プログラムの進捗について

遠藤委員より、資料 10・11 に基づき、3月31日に日本学術振興会にプログラムの申請を完了したこと、また、今後の審査に係るスケジュールについて報告があった。

(4) その他

- 甘利副会長より、筑波大学とセコム株式会社の協働大学院に関する協定書について、セコム株式会社側での手続きが終了し、近日中に筑波大学に送付する旨の報告があった。

以上